

地域の足として走り続ける

# 三重の地域鉄道

## 三重県と岐阜県の沿線7市町が連携して応援 養老鉄道 養老線

養老山地が雪化粧したころ、「桑名」駅で養老線に乗り込み、のどかな風景を眺めていると、自転車を持ち込んだまま乗車する人を見かけました。沿線には「上げ馬神事」で名高い多度大社や「養老公園」など、サイクリングに適した観光名所も多いことから、無料で自転車を乗せることができる



「西大垣」駅構内



「柘酒列車」※



「サイクルトレイン」※



日本酒とおつまみ弁当※

市町で設立された「一般社団法人養老線管理機構」ですと教えてくれるのは、「養老鉄道株式会社」鉄道営業部総務企画課の

時ごろまで。先頭車両から2両目が利用可能)を実施。また、7駅ではレンタサイクルも行われています。ゴトツトン、ゴトツトンと心地よいリズムに揺られていると、いつの間にか県境を越えて岐阜県へ。終点の「揖斐」駅までの距離は、57.5キロメートルあり、平成31(2019)年には全線開通100周年を迎えました。

「現在、運行は「養老鉄道株式会社」が行っていますが、鉄道施設や車両の保守管理費用を負担しているのは、沿線の7市町で設立された「一般社団法人養老線管理機構」ですと教えてくれるのは、「養老鉄道株式会社」鉄道営業部総務企画課の

小林 峰生さん

小田 ゆう子さん、お二人からは、同社が実施している企画列車についていろいろと伺いましたが、中でも人気なのは「柘酒列車」とのこと。自然豊かで水がきれいな沿線には酒蔵も多く、大垣特産の木柘で日本酒が味わえる同列車が評判となっているのです。また、夏季には地ビールや冷酒が堪能できる「地ビール列車」や「冷酒列車」も運行しています。GWも間近となり、本年も本格的な行楽シーズンの到来。多度をはじめとして養老や揖斐川町方面への観光には、渋滞がなく駐車場探しの苦労もしなくすすむ、養老鉄道がおすすめです。

高田 ゆう子さん

お問い合わせ  
「養老鉄道株式会社」  
TEL 0584-7813400  
(平日9時から17時30分)

※印の写真は取材先から提供していただきました

地域鉄道とは、新幹線や在来幹線、都市鉄道以外の鉄軌道路線のこと、一般的にはローカル鉄道とも称されます。国土交通省によれば、令和7年4月1日現在の地域鉄道事業者は98社で、そのうち三重県内を走る路線を運行するのは5社となっています。

今回は、地域住民の通学や通勤などの足として欠かせない、地域鉄道の各路線をご紹介します。時には地域鉄道に揺られてみてはいかがでしょうか。

※各地域鉄道の運行時間や運賃などには違いがあり、状況に応じて運行休止・中止する場合があります。また、各鉄道に関連する企画イベントおよびグッズ販売などについては、実施期間、受け入れ方法や人数、料金などに違いがあり、状況に応じて休止・中止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村真由美・堀口裕世・中川絵美子  
大島千佳  
撮影：梅川紀彦・松原豊・尾之内孝昭  
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

二人三脚で、地域住民の暮らしや経済をささげる

# 三岐鉄道 三岐線 北勢線

〔四日市市富田〕



桜満開のころの三岐線「伊勢治田(はった)」駅※

令和3年に開業90周年を迎えた「三岐鉄道株式会社」は、現在、三岐線と北勢線の2路線を運営しています。このうち、三岐線の旅は「近鉄富田」駅から始まります。3番線ホームから発車した途端、ゴトンッ、ゴトンッという音とともに、学生たちの元気で明るい声に包まれました。近くに高等学校があり、通学の足として重宝されています。しばらくの間、

車窓から見えるのはマンションなどが中心ですが、やがて田園風景が目立つようになり、山並みも迫ってきました。同駅から終点の「西藤原」駅までの距離は27・6キロメートル。所要時間は50分程度ですが、途中で「いなべ市大安図書館」が併設されている「大安」駅や、「貨物鉄道博物館」が傍らに建つ「丹生川」駅などに加えて、「東藤原」駅通過後には「太平洋セメント株式会社藤原工場」の迫力ある施設を間近にすることもでき、充実した時間を過ごせました。

「三岐線は、藤原岳から算出する石灰岩を原料としたセメント輸送が設立目的の一つでした」と話すのは、「三岐鉄道株式会社」総務部総務課の日紫喜 茂係長です。日紫喜さんからは、同一の貨物で往路と復路で異なる荷物を運ぶなど、地球環境に優しい輸送を行っていることも教わりました。また、曜日によって利



日紫喜 茂さん

用可能な駅は異なりますが、無料で自転車を持ち込める「サイクルパス」もっています。

一方、北勢線に乗り車するために「西桑名」駅に向かうと、小さな車両に目を奪われました。車内で向かい合わせに座る人との距離が近いのを実感します。同線は、線路幅の狭い簡易な規格で建設された軽便鉄道として誕生したため、レール間隔はわずか762ミリメートル。JR在来線の1067ミリメートルより狭い(ナロー)ため、「ナローゲージ」と称されます。現在、ナローゲージは国

内に3路線のみとなり、北勢線も一時は廃線が決まっていたましたが、沿線住民や地元自治体からの強い要望に応え、「三岐鉄道株式会社」が運行しています。平成26(2014)年には開業100周年を迎え、季節イベントなども積極的に実施。たとえば11月中旬から12月25日までの期間は、クリスマス仕様でラッピングされた「クリスマストレイン」が走ります。

総距離20・4キロメートルの北勢線の車窓からは、のどかな田園風景の先に連なる鈴鹿山脈を一望できるほか、地元産

野菜などをお値打ちに販売する「ふれあいの駅うりぼう」が併設された「大泉」駅など、個性的な駅もあります。終点の「阿下喜」駅のすぐ隣には「軽便鉄道博物館」(第1・3日曜日開館。入館無料)があり、開館日のこの日は親子連れで賑わっていました。

2路線の沿線には、名所・旧跡も数多く存在します。春風に誘われて三岐鉄道の旅を満喫してはいかがでしょうか。

## お問い合わせ

「三岐鉄道株式会社」  
TEL 059-364-2141



麦畑の中を縫うように走る三岐線※



地域の資源を運搬する貨物列車※



地域住民にも鉄道ファンにも愛される北勢線※



「クリスマストレイン」※



「三岐鉄道株式会社」本社

※印の写真は取材先から提供していただきました

鉄道少年の夢をはぐくむ

特定非営利活動法人

# 貨物鉄道博物館

〔いなべ市大安町〕



明治から昭和まで活躍した英国製のB4型39号蒸気機関車

三岐鉄道三岐線にガタンゴトンと揺られ「丹生川」駅に降り立つと、駅舎隣の広場には、大勢の人が集まっています。この日は一か月に一度の「貨物鉄道博物館」の開館日。キッチンカーが何台も並び、子ども連れのファミリーや中高生らしい若者たちなどの鉄道ファンが三々五々楽し気に語らって、お祭りのようににぎわっています。

車のイラストが描かれた建物の中には、貨物鉄道に関わるさまざまな展示のほか、鉄道模型が走っているジオラマやグッズの販売コーナー、昔懐かしい木のベンチが並ぶイベントスペースなどがあり、こちらも盛況。外の線路際には、蒸気機関車や現存する最古級といわれる貨車の実物がずらりと並んでいます。ここは、貨物鉄道を対象とする日本では唯一の博物館。明治6（1873）年にはじまった鉄道による貨物輸送の130年を記念して、平成15（2003）年に開設されました。



館長の吉田 雄一さん

た」とのこと、壁に掛けられたさまざまな貨車の展示を見ると、現在よく見かけるコンテナ型やタンク型の貨車のほか、野菜用に通気を良くした貨車や冷蔵車、家畜用など、載せるものに合わせてさまざまな形の

貨車が工夫され、使われていたことが分かります。模型の列車の横には、子どもたちに説明する駅員さんの服装に身を包んだ男



鉄道が大好きなボランティアスタッフたち

性たち。「現在の運営は、すべてボランティアのスタッフと寄付で行われています。制服姿の人たちも、私たちもボランティアスタッフで、服や模型も私物なのですよ。」

入り口横には、黒い蒸気機関車がどっしりと存在感を示しています。「これは日本鉄道が発注した蒸気機関車で、明治31（1898）年英国のシャープスチュワート製。明治39（1906）年に国有化され、大正11（1922）年に東武鉄道B4形39号となり、昭和41（1966）年

に引退するまで貨物列車牽引に活躍してきました」。その他、最近クラウドファンディングで資金を集めて現役時の姿に復元された貨車「テワ1型1号」など、いずれも日本の発展をささげて、力強く走ってきた機関車や貨物車の現物が並んでいます。

時折開催されるイベントも大人気。ウェブサイトなどでご確認ください。

### お問い合わせ

「特定非営利活動法人 貨物鉄道博物館」事務局  
（三岐鉄道株式会社内）  
TEL 059-364-2141



横溝 英一氏のイラストが楽しい外観



館内には多彩な展示も



模型スペースの周りには少年が集まる



機関車に乗り込んで鉄道員になりきる



「テワ1型1号」など貨車も多数

明日に向かって進化し続ける。市民の足

# 四日市あすなろう鉄道

内部線 八王子線 〔四日市市安島〕



車体カラーは、四日市市の豊かな自然をイメージした「なろうグリーン(写真)」と「なろうブルー」の2種

ゴトゴトと心地よく響く、独特の体感と走行音。全席窓側で車窓からの景色を楽しめる「二人掛けシート」や、子どもが握りやすい高さに設置されている、双方利用が可能な「ハート型」の持ち手など、乗客への細かな気配りが随所にみられる車内。現役の鉄道では全国で3事業者のみになった、貴重なナローゲージ(線路幅が762ミリメートル)の特殊狭軌が特長である「四日市あすなろう鉄道」。四日市市の市民の足として110年以上の歴史を紡いでいます。

大正元(1912)年、<sup>ひなが</sup>軽便鉄道として「日永」

駅から「八王子村」駅(のちの「伊勢八王子」)

駅間で開業。その後、

順次区間が広がり、内部線がスタートしまし

た。昭和49(1974)

年の集中豪雨による天

白川の水害により「西

日野」駅か

ら「伊勢八王子」駅間が廃止され、現在の

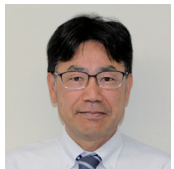
八王子線(「日永」駅から「西日野」駅間)と、内部線(「あすなろう四日市」駅から

「内部」駅間)の2路線になっています。

利用者減少などによる廃線の危機を乗り越えて、平成27(2015)年4月に



四日市市 都市整備部 都市計画課 公共交通推進室 杉村 圭亮(けいすけ)さん



四日市市 都市整備部 都市計画課 副参事 公共交通推進室 室長 藤田 貴(たかし)さん



四日市あすなろう 鉄道株式会社 総務企画課 サブチーフ 東快成(あずまかいせい)さん



四日市あすなろう 鉄道株式会社 鉄道営業部 運輸課 運輸管理所長 長谷川 一樹さん

誕生したのが「四日市あすなろう鉄道株式会社」。近鉄と四日市市がそれぞれ出資する第三セクター鉄道で、公有民営方式により運営し、令和7年4月に開業10周年を迎えました。明日に向かって進むという未来への希望と、ナローゲージに由来して名付けられた「四日市あすなろう鉄道」は、生活をささえる公共交通の役割をベースに、さまざまな工夫で利用者増をめざしています。

特に話題になっているのは冬の期間

限定で運行している「イルミネーション列車」。17時以降の一部営業列車内の天井や窓が、それぞれの車両カラーで装飾さ



デザイン性と機能性を兼ね備えた「ハート型の持ち手」



「日永」駅の「スリーゲージモニュメント」



「イルミネーション列車」車内\*



「シースルー列車」車内\*



「1日駅長体験」\*

れ、幻想的な雰囲気を楽しめます。平成31(2019)年に導入された「シースルー列車」は、床面の一部を透明化することで、枕木、ナローゲージの車輪が動く様子や、「日永」駅では、日本で唯一のナローゲージ分岐点を上から眺めることができ、鉄道ファンの心を掴んでいます。また、「デジタル駅スタンプ」やポイントラリー、乗車体験会、カフェ列車など、地域に密着したさまざまなイベントが開催され、利用促進だけでなく地域活性化の基盤も担っています。また、四日市市ふるさと応援寄付金の返礼品として行っている「1日駅長体験」や「貸切列車」、高校入学試験当日の

往復運賃が無料になる「高校入試応援キャンペーン」などが好評です。

地域住民や沿線に通う学生の生活に欠かせない交通手段でありながら、市の観光資源でもある「四日市あすなろう鉄道」。市民とともに育てていく鉄道として、これからも利用者の安全確保と利便性の向上、四日市市のまちづくりへの取り組みのために前進し続けます。

\*「デジタル駅スタンプ」は、株式会社ジェイアール東日本企画の登録商標です。

## お問い合わせ

「四日市あすなろう鉄道株式会社」  
TEL 059-351-0688

\*印の写真は取材先から提供していただきました

四季折々の景色を楽しめる単行列車

# 伊勢鉄道 伊勢線

【鈴鹿市桜島町】



のどかな田園の中を一両で走る\*

田園風景の広がる伊勢平野を走る一両の列車。「伊勢鉄道」は昭和62(1987)年に開業し、来年40周年を迎えます。国鉄の民営化にともない廃止対象路線となっていた旧国鉄伊勢線を引き継ぎ、三重県をはじめとする自治体と民間企業が出資して設立された第三セクターの鉄道会社です。路線は「河原田」駅から「津」駅までの22.3キロメートル。河原田と津を合

わせて10の駅があり、その区間を約30分で結んでいます。「ワイドビュー南紀」や「快速みえ」などJRの長距離列車が乗り入れ、三重県の中勢・東紀州地域と名古屋地域を結ぶバイパスとしての役割を担っています。毎日、朝5時台から夜11時台まで運行し、1日の利用者は約4000人。その多くは沿線の住民で、通勤・通学に欠かせない地域に密着した鉄道です。一方、鈴鹿サーキットに最も近い鉄道の駅も有しており、F1や8耐の期間中は大勢の人で賑わいます。

「伊勢鉄道」の魅力といえば、まずは車窓からの眺めです。路線の大半が高架または盛り土された区間を走行しているため、見晴らしがよく、美しい景色が楽しめます。特に伊勢平野に広がる田園風景は、春は水鏡、初夏は緑の絨毯、晩夏には一面の黄金色…。折々に田植えや稲刈りのようすも見られ、季節感を味わえます。また遠くに見える伊勢湾や鈴鹿の山々、四日市のコンビナートなどさまざまな三重ならではの風景を楽

しめます。

「伊勢鉄道」は、非電化の路線のため、現在運行しているのは1両編成の気動車(ディーゼルカー)「イセIII型」のみですが、その車両にも特長があります。ローカル線というとのんびりしたイメージがあるかもしれませんが、「伊勢鉄道」は、河原田⇨鈴鹿、河芸⇨東一身田は時速100キロメートルを超える速さで走行します。これはかつて国鉄伊勢線として設計された高規格や直線路線があり、乗り入れするJR特急と連携した速達性を重視しているためです。1両編成で時速100キロメートルを

出す非電化のローカル鉄道は全国でも珍しいといえるでしょう。また車両はバスの設計を鉄道車両に応用したワンマン気動車で、1両で前後両方に運転台があるのもローカル線ならではです。

鉄道の利用を促進するためにさまざまな取り組みも行っています。例えば、第三セクター鉄道等協議会が主催する御朱印帳の鉄道版「鉄印帳」に参加しており、「鈴鹿」駅で伊勢型紙の技法を活かしたオリジナル印(デジタル鉄印もあり)を販売しています。また、みえ応援ポケモン「ミジュマル」がデザインされ

たラッピング車両もあり、年1〜2回グリーティングイベントを実施するとたくさんの親子連れでにぎわうそうです。「これから先も地域密着の鉄道会社として、地域住民の移動手段を守っていきたい」と語る取締役の石野 雅美さん。地域の生活になくてはならない路線として、今日も走り続けています。



伊勢鉄道株式会社 取締役 石野 雅美さん

## お問い合わせ

「伊勢鉄道株式会社」  
鈴鹿市桜島町1丁目20番地



地元住民の貴重な移動手段



4両を所有している



車内のようす



整備中の車両



鉄印(デジタル)※



鉄印(紙)※

\*印の写真は取材先から提供していただきました

忍びのまちを忍者列車が走る

# 伊賀鉄道 忍者鉄道

【伊賀市上野】



忍者列車の横にはかわいいネコのイラストが ©松本零士／零時社

古い家並みが残る伊賀の町を、忍者列車が走ります。鋭い目つきで、前傾姿勢で走る忍者を思わせ、強いインパクト。大正ロマンを感じさせる駅舎やレンガの跨線橋などのレトロな風景と絶妙なコントラストです。「忍者列車が登場したのは平成9（1997）年からで、漫画家の松本零士さんのデザインです。青・緑・ピンクの3色の忍者列車があり、緑色は木育トレイン」となっていて、車内に三重県産の杉

が使用されていますよ」と教えてくださったのは、伊賀鉄道鉄道営業部 総務企画課 課長補佐の中村 光宏さん。平成19（2007）年に近畿日本鉄道から運営が移管されて伊賀鉄道となる以前からここに勤務されている、生え抜き、伊賀鉄道マンです。



中村 光宏さん

忍者列車以外にも、伊賀鉄道のキャラクター「ふくにん」が描かれたふくにん列車や、シルバーに赤いラインの入った車両も走っています。網棚の隅に小さな忍者が潜んでいたり、「上野市」駅（愛称：忍者市駅）のコインロッカー上にはとびかかってきそうな忍者がいたり、電車や駅の随所に、これでもかといわんばかりに乗客を楽しませるサービス精神があふれています。

「この路線が開通したのは大正5（1916）年と古いのですよ。初めは、上野駅連絡所（現在の関西本線「伊賀上野」

駅）と「上野町」駅（現・「上野市」駅）とを結んでいました。大正11（1922）年に庄田駅現・伊賀神戸駅（現・伊賀市）を含む路線が開通し、今もJR「伊賀上野」駅から伊賀市

の中心部を通って近鉄「伊賀神戸」駅を結び、市民の足としても、観光に來られる方々にも親しんでいたれています。通勤や通学のほか、インバウンドの観光



大正時代に建った「上野市」駅の駅舎



木育トレインの網棚には小さな忍者が



線路上を走る軌道自転車※



フクロウの忍者「ふくにん」の列車



運転シミュレーション※



「花火鑑賞列車」で絶景を※

客の中には、忍者列車に乗ることを目的に來られる方も多いのだとか。「忍者列車から、忍者の装束に身を包んだお客さまが大勢降りてくる、というようなことは頻繁にありますよ」とのこと。伊賀市が世界的に「ニンジャのまち」として知られているのが実感されます。

「開業当時は蒸気機関車でしたが、大正15（1926）年に電化され、今年は電化100年の記念すべき年に当たりますので、毎年5月3日に行っている『伊賀線まつり』は盛大に行う予定です。車掌体験や運転シミュレーション、軌道自転車などの体験のほか、他社のグッズ販売などもあり、毎年好評の催しです。ほかにも車内でスイーツを楽しむ「甘いもんといん」や、鉄橋の上に列車を停めて特等席で見る「花火鑑賞列車」など、大人気の企画もあります。ウェブサイトなどでご確認のうえご参加ください。

## お問い合わせ

「伊賀鉄道株式会社」

TEL 0595-21-0863

※印の写真は取材先から提供していただきました